

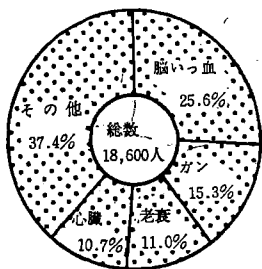
104. 死因別死亡者数 (1)

昭和9~11年平均の平均死亡率(人口1,000人に対する割合)は、18.9人(全国平均17.5人)であったが、戦後急速に死亡率は低下し、昭和29年以降10人以下となり、39年には7.2人(全国平均6.9人)となった。

全国平均との差は縮小したものの、なお、若干高くなっている。

グラフは死因別構成をみたもので、脳いつ血25.6%、ガン15.3%、老衰11.0%の順となっており、前年比較で特に増えたのは、自動車事故12.1%、ガン9.7%等である。

死因別死亡者数(昭和39年)



死因	昭和37年	昭和38年	昭和39年
総数	20 089	18 353	18 600
呼吸器系の結核	627	549	505
その他	37	23	42
腸チフス	43	37	37
コレラ	1	—	—
赤痢	41	25	13
赤痢	—	—	—
ジフテリア	6	2	—
百日咳	4	1	—
髄膜炎	2	3	3
急性灰白髄炎	1	1	—
麻疹	12	11	19
発疹チフス	—	1	—
マラリア	—	—	—
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾患	120	89	94
悪性新生物	2 614	2 597	2 850
良性新生物	129	144	125
糖尿病	95	105	98
貧血	29	38	30
中枢神経系の血管の損傷	4 700	4 752	4 769
髄膜炎	36	28	31
慢性リウマチ	26	18	19
動脈硬化症	123	119	113
その他の心臓疾患	1 534	1 495	1 524
その他	481	346	345

厚生省大臣官房統計調査部「人口動態統計毎月概数」

104. 死因別死亡者数 (2)

死因	昭和37年	昭和38年	昭和39年
高血圧性心臓疾患	377	350	343
その他の高血圧性疾患	219	194	187
肺気腫	286	8	9
肺炎	932	626	617
支那肺炎	228	159	155
胃腸の潰瘍	326	304	255
十二指腸潰瘍	23	26	28
腸閉塞	115	95	88
胃腸炎、十二指腸炎、腸炎	382	353	376
肝臓	176	177	151
腎臓	318	304	266
前立腺肥大症	12	16	20
妊娠分娩および産褥の合併症	49	47	41
先天性奇形	98	105	106
出生時の損傷、分娩後窒息および肺不全	62	51	51
新生児の感染症	126	108	106
その他の新生児固有の疾患および性質不明の未熟児	455	419	378
精神病の記載のない老衰並びに診断名不明および不明の原因	2 360	1 997	2 048
その他のすべての疾患	1 472	1 324	1 303
自動車事故	459	422	473
その他の不慮の事故	564	516	590
自殺	350	342	347
他殺	39	31	44

105. 理、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和32年)	2 388	1 044	1 042	324	16	121	515
33 1)	2 454	1 198	1 096	337	12	137	612
34	2 587	1 301	1 244	353	29	132	795
35	2 663	1 369	1 312	350	32	158	812
36	2 737	1 482	1 077	366	36	157	894
37	2 818	1 574	1 136	373	39	155	893
38	2 936	1 713	1 603	378	41	144	951
39	3 094	1 909	1 268	387	46	132	1 064

環境衛生課 注) 1) は3月31日現在の数である。38年の普通旅館にはホテル、旅館および簡易宿泊業を含む。